

第19号

本小の教育「授業改善研」

提案授業

◦本小授業改善『主体的・対話的な深い学び』

今回は、6 学年・逸子先生の「提案授業」である。台風 9 号により休校となり、変更を余儀なくされたにも関わらず本日に移し実践できる事に感謝である。本校（本県）の学力向上 P P II、新指導要領で謳われている「3つの資質・能力」などを育む授業改善とはどのようなものであるかの疑問に応える「提案授業」である。本小の授業改善は『対話的な深い学び』である。昨年度から、「素晴らしい学級経営、素晴らしい授業実践」を行ってられる「逸子」先生に「提案授業」をお願いした。予想通りの授業に感動した。**Good Job!**

■ 6 年 3 組（算数）「澤岬 逸子」先生 6 校時目 [提案授業]



【児童の手（学習規律）】

●「タブレット」活用。班内での対話を

【教室の色（支持的風土）】

●「3 名・1 グループ」対話型の基本

【教師の目（教師の姿勢）】

●「子の思考と対話」慌てず、騒がず、見守る。

■【児童観】「児童の様子」

●「担任との繋がり」人間関係形成力が良い
●「クラスの雰囲気」支持的風土の醸成良い
●「安心して発言が」所属感、連帯感、承認
●「対話が慣れてる」どの班もバランス良い

■【教材観】「学びの様子」

●「図形・アーモンド」子供からの声を聴く
●「見たことない図形」知ってる図へと繋ぐ
●「面積を求める」既習事項へと思考を戻す
●「計算はタブレット」P C や計算機の活用

■「授業における基本事項 及び 学力向上重点事項」（地区学力向上推進内容）

評価観点（指標）	本 校	
① 互いに認め合い、支え合う風土の醸成	3.01	●「学級経営」の充実
② 学習環境（学習規律、言語環境、教室環境）の充実	2.88	
③ 授業開始・終了時刻の徹底	3.04	●「タイム・マネジメント」
④ 簡潔な説明と的確な指示	2.96	
⑤ 身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定	2.99	●「めあて」「まとめ」「振り返り」
⑥ 「めあて」に正対した「まとめ」「振り返り」	2.82	
⑦ 学習のねらいに迫る「意図的・計画的な発問」	2.99	●「発問」
⑧ 思考を広げ、深める「発問」の工夫	2.74	
⑨ 課題について自分自身の考えをもつ時間の確保	2.86	●「思考・判断・表現」
⑩ 学習のねらいの達成に向けた「交流」場面の設定	2.81	
⑪ 授業の展開に生かす評価（児童の見取り）	2.98	●「評価」「見取り」
⑫ 評価規準に基づく評価場面の設定	2.96	
⑬ 思考を整理し考えを深める構造的な板書	2.99	●「板書、ノート、教具」
⑭ 教具・I C T 機器の効果的な活用	3.33	

■「主体的・対話的、深い学び」を創る

●「ねらい」：多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明する
●「グループ活動」：「学び合い、認め合い、高め合う」支持的風土づくりの醸成がとても良い。
●「この図形は、なぜ難しいのか？」
●「切っても」「分解しても」：既習の知ってる図形にはならない。つまり、「見えない」
●「見えない」を「見える化」する発問こそが、「見通し」を持たせる「思考を拓く発問」
●「発問」：「この図形の中に、どの様な形が見えますか？」・正方形、扇形、円の 1 / 4
●「発問」：「見つけた形をどの様に考えたら～」
●「算数的」に、本時は、曲線で囲まれた図形の面積を工夫して測定する能力を伸ばすこと。
●次に、円の面積を求める公式をつくる活動から、算数として簡潔かつ的確な表現へと高める能力を伸ばすこと。＜算数・数学の良さ＞
●「コロナ禍」の中に於いても、対話的な学びは必要である事に違いはない。方向性は再確認。
●「主体的、対話的、深い学び」を「イノベーション（創出）」する根底は「芽球経営」にある。



【感想】 「見えない」を「見える化」する 発問 の工夫が...。 「対話的、深い学び」へと 繋がる！

○「学び合いでは、思考した過程や結果などを図や式、言葉を用いて表現し、対話的に伝え合うことが大切」
○「認め合いでは、他者の思考した過程も尊重し受け入れ、自己の思考との相違点を 吟味することも大切」
○「高め合うでは、友達の考えを図や式と関連付けて表現し、説明し、思考力・表現力を高めることも大切」
○「複雑な図形の面積を既習の求積可能な図形の面積を基に考え、図や式を用いて説明することができてる」
○「会話でなく、対話を通して互いの考えを深めたり、自分とは違う考えに気付いたりすることを、ねらう」
○「思考を広げる発問」と「学習のねらいの達成に向けた『交流』場面の設定が本校の課題である。改善を」

校長より

